

福岡市
障がい児・者等実態調査
－調査報告速報版－

令和7(2025)年11月

目次

1 調査の概要

(1) 調査設計と回収結果.....	1
--------------------	---

2 回答者の状況

(1) 回答者の年齢.....	3
(2) 身体障がい児・者、精神障がい者の手帳等級、知的障がい児・者の手帳判定	4
(3) 発達障がいの診断名.....	5
(4) 難病の疾患名.....	6

3 各障がい調査の結果

(1) 生活状況.....	10
①住まいの形態.....	10
②同居家族.....	11
③主な介助者.....	12
④主な介助者の年齢.....	13
⑤介助者が不在となった場合の緊急時対応.....	14
(2) 外出状況.....	15
①外出の頻度.....	15
②外出時に不便や困難を感じること.....	16
(3) 就労状況.....	17
①就労形態.....	17
②障がい者が働きやすくなると思う働き方や制度.....	18
(4) 今後の暮らし方.....	19
①希望する今後の暮らし方.....	19
②自宅やグループホームで生活するために必要な条件.....	20
(5) 防災について.....	21
①災害発生時に困ることや不安なこと.....	21
(6) 福祉施策全般について.....	22
①障がい者福祉施策として国や県、市に力を入れてほしいこと.....	22

4 事業所調査の結果

(1) 回答事業所の概要について.....	23
①事業所が提供しているサービス.....	23
(2) 不足している社会資源（相談支援事業所調査、施設事業所調査）.....	24
(3) 事業所で取り組む必要があると思うもの（居宅介護等サービス事業所調査）.....	26

※本速報版は、調査手法や対象者が異なる複数の調査結果を、質問項目ごとに集約したものです。

1 調査の概要

(1) 調査設計と回収結果

【今回 R7年度調査】

調査種別		調査対象	調査方法	標本数	有効回収数（回収率）	調査実施期間
身体・知的障がい児・者実態調査	身体障がい者調査	市内在住の身体障がい者（18歳以上） 【層化無作為抽出】	郵送調査・訪問調査 （視覚障がい、肢体不自由）	1,300人	768人（59.1%）	令和7年6月17日～7月25日
	知的障がい者調査	市内在住の知的障がい者（18歳以上） 【層化無作為抽出】	郵送調査	850人	483人（56.8%）	
	障がい児調査	市内在住の身体・知的障がい児（17歳以下） 【層化無作為抽出】	郵送調査	850人	495人（58.2%）	
	計			3,000人	1,746人（58.2%）	
精神障がい者実態調査（※1）		市内在住の精神障がい者（18歳以上） 【層化無作為抽出】	郵送調査	1,000人	487人（48.7%）	令和7年6月17日～7月25日
発達障がい児・者実態調査		発達障がい者関係団体等に所属（利用）、もしくは特別支援学級や通級指導教室に通っている発達障がい児・者とその家族	団体や学校を通じた配布・回収	配布数（※2） 900人	231人（25.7%）	令和7年6月17日～7月25日
難病患者実態調査		福岡市内に居住する特定医療費（指定難病）受給者証所持者 【層化無作為抽出】	郵送調査・訪問調査（一部希望者）	1,000人	591人（59.1%）	令和7年6月17日～7月25日
事業者等状況調査		市内の相談支援事業所、居宅介護等事業所、施設事業所、グループホーム事業所、及び市の相談機関 【全数】	郵送調査	1,300事業所	879事業所（67.6%）	令和7年6月17日～7月25日

（※1）精神障がい者に関する調査方法は、今回調査より市内在住の精神障がい者（18歳以上）から層化無作為抽出を行い、郵送調査へ変更した。

（※2）調査を依頼した各団体に所属する方（保護者も含む）を対象として配布した数。
同一人物が複数の団体に重複している場合もあり、配布数＝配布した実人数ではないもの。

◆参考【前回 R1年度調査】

調査種別		調査対象		調査方法	標本数	有効回収数（回収率）	調査実施期間
身体・知的障がい児・者実態調査	身体障がい者調査	市内在住の身体障がい者（18歳以上） 【層化無作為抽出】		郵送調査・訪問調査（視覚障がい、肢体不自由）	1,300人	760人（58.5%）	令和元年9月20日～10月15日
	知的障がい者調査	市内在住の知的障がい者（18歳以上） 【層化無作為抽出】		郵送調査	850人	563人（66.2%）	
	障がい児調査	市内在住の身体・知的障がい児（17歳以下） 【層化無作為抽出】		郵送調査	850人	543人（63.9%）	
	計				3,000人	1,866人（62.2%）	
精神障がい者実態調査	病院	計	福岡都市圏に開設し、精神科を標榜している病院を利用する患者（福岡都市圏：福岡市、筑紫野市、大野城市、太宰府市、宗像市、糸島市、古賀市、福津市、糟屋郡）	病院を通じて依頼・回収	①48か所	40か所（83.3%）	①一次調査 令和元年6月～7月 ②二次調査 令和元年10月～11月
		②1,663人			1,221人（73.4%）		
		入院			1,000人	795人（79.5%）	
		通院			663人	426人（64.3%）	
	診療所等	通院	福岡都市圏に開設し、精神科を標榜している診療所等を利用する患者	診療所等を通じて依頼・回収	①109か所	65か所（59.6%）	
					②1,337人	275人（20.6%）	
発達障がい児・者実態調査			発達障がい者関係団体等に所属（利用）、もしくは特別支援学級や通級指導教室に通っている発達障がい児・者とその家族	団体や学校を通じた配布・回収	配布数（※） 900人	258人（28.7%）	令和元年9月20日～10月15日
難病患者実態調査			福岡市内に居住する特定医療費（指定難病）受給者証所持者 【層化無作為抽出】	郵送調査・訪問調査（一部希望者）	1,000人	661人（66.1%）	令和元年9月20日～10月15日
事業者等状況調査			市内の相談支援事業所、居宅介護等事業所、施設事業所、グループホーム事業所、及び市の相談機関 【全数】	郵送調査	842事業所	628事業所（74.6%）	令和元年9月20日～10月15日

（※）調査を依頼した各団体に所属する方（保護者も含む）を対象として配布した数。
同一人物が複数の団体に重複している場合もあり、配布数＝配布した実人数ではないもの。

2 回答者の状況

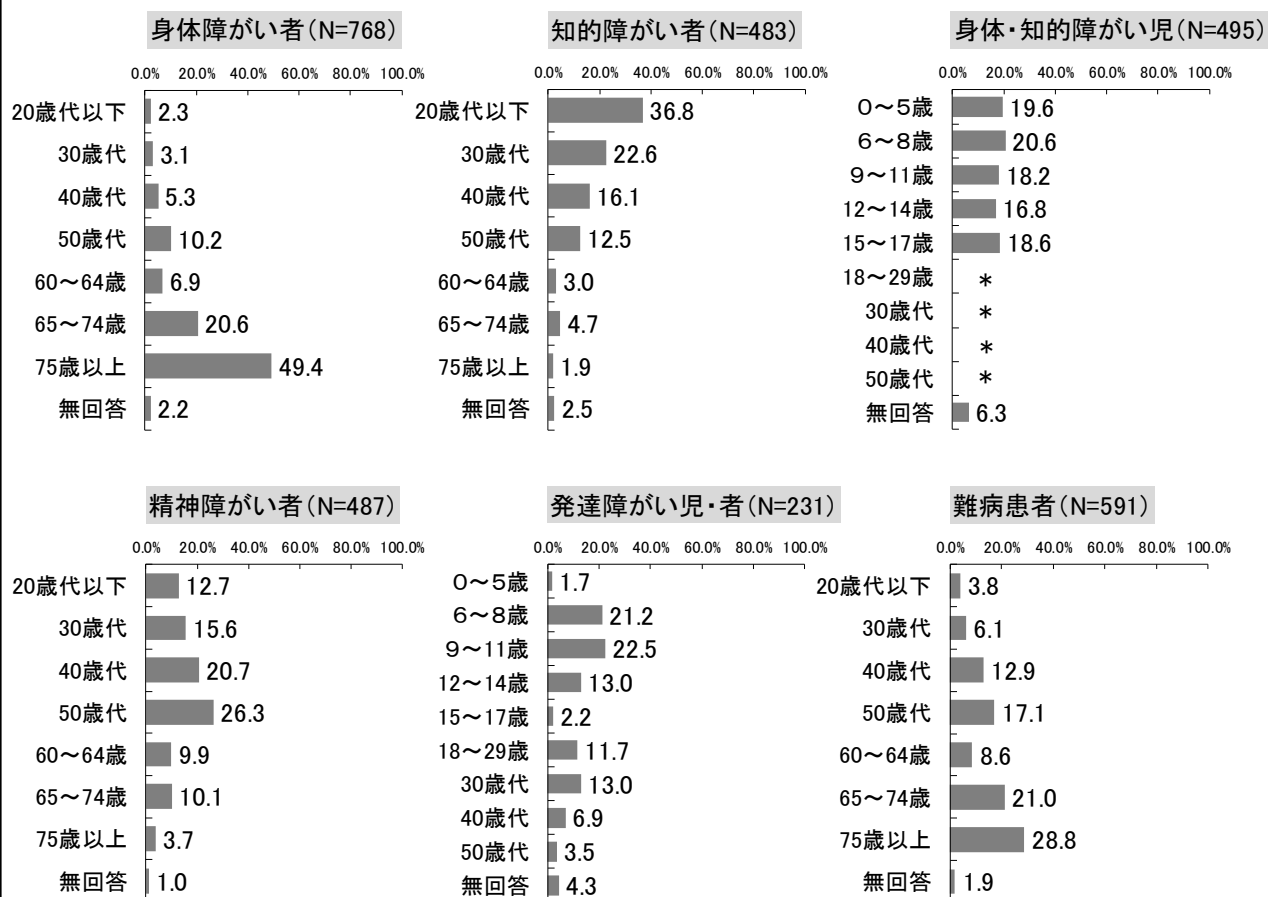
●調査結果の見方●

回答は、原則として各質問の調査数を基数（N）とした百分率（％）で表し、小数第2位を四捨五入している。このため、百分率の合計が100%にならない場合がある。
また、2 つ以上の回答ができる複数回答の質問では、回答比率の合計が100%を超える。

（1）回答者の年齢

- 身体障がい者は 65 歳以上の高齢者、知的障がい者は 20 歳代以下の若年層の占める割合が高くなっている。
- 精神障がい者は、50 歳代（26.3%）が最も多くなっている。
- 発達障がい児・者は、団体や学校を通じて調査を実施したこともあり、18 歳未満の年齢層が約6割を占めている。
- 難病患者は、65 歳以上の高齢者が約半数を占めているが、40～60 歳代前半でも約4割を占めている。

【回答者の年齢】



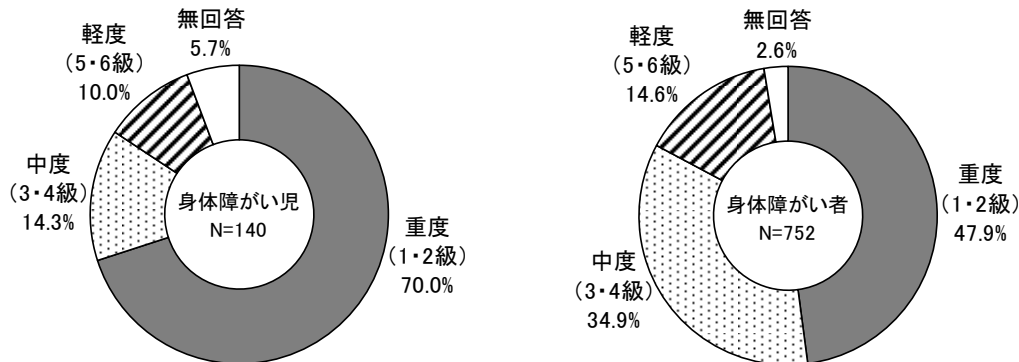
注(*)：身体・知的障がい児調査には該当はない。

(2) 身体障がい児・者、精神障がい者の手帳等級、知的障がい児・者の手帳判定

- 身体障がい児・者の手帳等級では、身体障がい児・者それぞれ重度（1・2級）が全体の約7割、約5割を占めている。
- 知的障がい児・者の手帳判定では、知的障がい児は軽度（44.3%）、知的障がい者は重度（45.8%）が全体の約4割を占めている。
- 精神障がい者の手帳等級では、2級（52.7%）が全体の過半数を占めている。

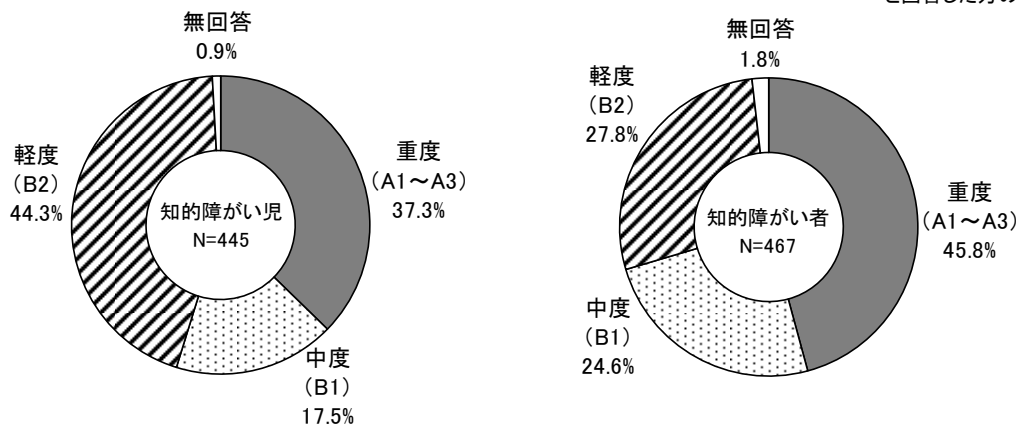
【身体障がい児・者の手帳等級】

※集計対象は、「身体障害者手帳を持っている」と回答した方のみとしている。



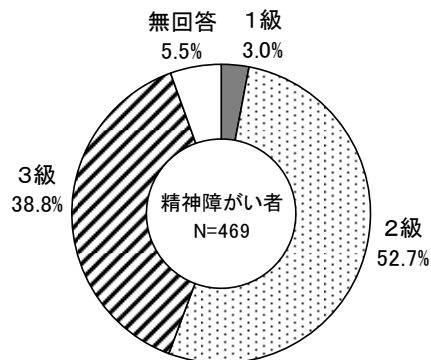
【知的障がい児・者の手帳判定】

※集計対象は、「療育手帳を持っている」と回答した方のみとしている。



【精神障がい者の手帳等級】

※集計対象は、「精神障害者保健福祉手帳を持っている」と回答した方のみとしている。

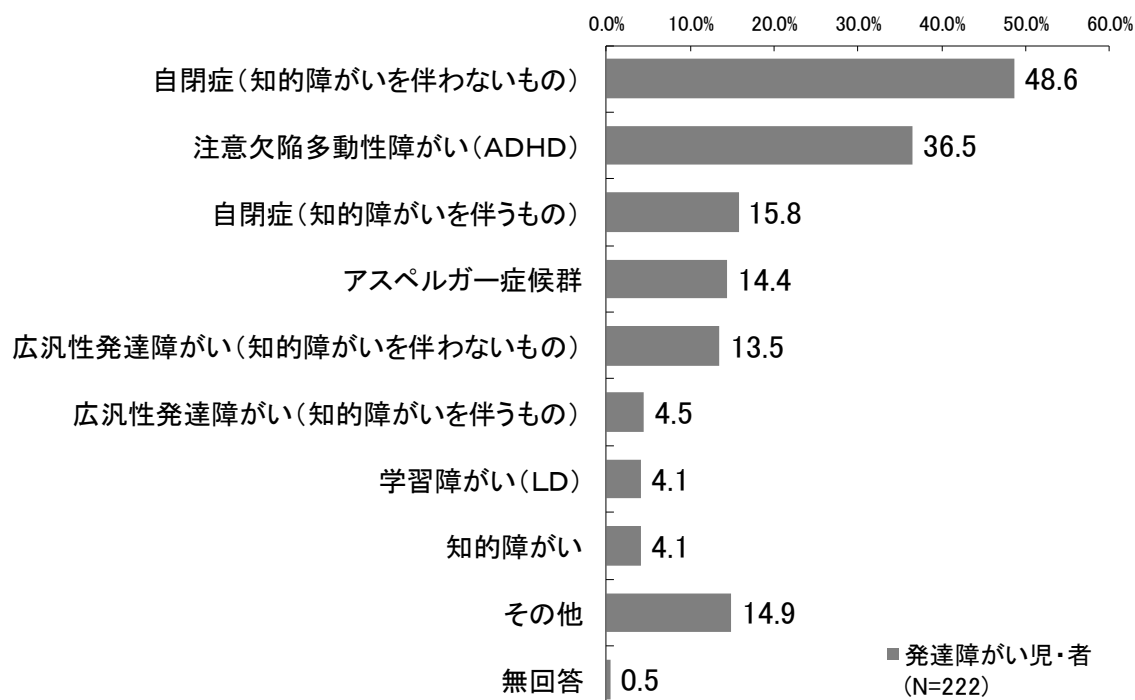


(3) 発達障がいの診断名（複数回答）

- 発達障がいの診断名では「自閉症（知的障がいを伴わないもの）」（48.6%）が最も多く、次いで「注意欠陥多動性障がい（ADHD）」（36.5%）、「自閉症（知的障がいを伴うもの）」（15.8%）となっている。

【発達障がいの診断名】（複数回答）

※集計対象は、「発達障がいの診断を受けている」と回答した方のみとしている。



(4) 難病の疾患名

- 難病では、回答者 591 名中、「パーキンソン病（疾患番号6）」が 83 名で最も多く、次いで「潰瘍性大腸炎（疾患番号 97）」が 77 名、「クローン病（疾患番号 96）」が 30 名となっている。

【難病の疾患名】

番号	病名	回答者数 (N=591)
1	球脊髄性筋萎縮症	0
2	筋萎縮性側索硬化症	3
3	脊髄性筋萎縮症	1
4	原発性側索硬化症	1
5	進行性核上性麻痺	1
6	パーキンソン病	83
7	大脳皮質基底核変性症	2
8	ハンチントン病	0
9	神経有棘赤血球症	0
10	シャルコー・マリー・トゥース病	2
11	重症筋無力症	19
12	先天性筋無力症候群	0
13	多発性硬化症／視神経脊髄炎	15
14	慢性炎症性脱髄性多発神経炎／多発性運動ニューロパチー	4
15	封入体筋炎	1
16	クロウ・深瀬症候群	0
17	多系統萎縮症	4
18	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	15
19	ライソゾーム病	1
20	副腎白質ジストロフィー	1
21	ミトコンドリア病	1
22	もやもや病	11
23	プリオン病	0
24	亜急性硬化性全脳炎	0
25	進行性多巣性白質脳症	0
26	HTLV-1関連脊髄症	0
27	特発性基底核石灰化症	0
28	全身性アミロイドーシス	6
29	ウルリッヒ病	0
30	遠位型ミオパチー	0
31	ベスレムミオパチー	0
32	自己貪食空胞性ミオパチー	0
33	シュワルツ・ヤンペル症候群	0
34	神経線維腫症	2
35	天疱瘡	3
36	表皮水疱症	0
37	膿疱性乾癬(汎発型)	2
38	スティーヴンス・ジョンソン症候群	0
39	中毒性表皮壊死症	0
40	高安静脈炎	2
41	巨細胞性動脈炎	2

番号	病名	回答者数 (N=591)
42	結節性多発動脈炎	0
43	顕微鏡的多発血管炎	7
44	多発血管炎性肉芽腫症	3
45	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	7
46	悪性関節リウマチ	1
47	バージャー病	1
48	原発性抗リン脂質抗体症候群	2
49	全身性エリテマトーデス	29
50	皮膚筋炎／多発性筋炎	15
51	全身性強皮症	12
52	混合性結合組織病	5
53	シェーグレン症候群	8
54	成人発症スチル病	2
55	再発性多発軟骨炎	0
56	ベーチェット病	4
57	特発性拡張型心筋症	4
58	肥大型心筋症	4
59	拘束型心筋症	0
60	再生不良性貧血	8
61	自己免疫性溶血性貧血	1
62	発作性夜間ヘモグロビン尿症	1
63	免疫性血小板減少症	1
64	血栓性血小板減少性紫斑病	4
65	原発性免疫不全症候群	1
66	IgA 腎症	5
67	多発性嚢胞腎	7
68	黄色靱帯骨化症	3
69	後縦靱帯骨化症	17
70	広範脊柱管狭窄症	3
71	特発性大腿骨頭壊死症	10
72	下垂体性ADH分泌異常症	3
73	下垂体性TSH分泌亢進症	0
74	下垂体性PRL分泌亢進症	0
75	クッシング病	0
76	下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症	0
77	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	4
78	下垂体前葉機能低下症	8
79	家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	0
80	甲状腺ホルモン不応症	0
81	先天性副腎皮質酵素欠損症	0
82	先天性副腎低形成症	0

番号	病名	回答者数 (N=591)
83	アジソン病	0
84	サルコイドーシス	7
85	特発性間質性肺炎	15
86	肺動脈性肺高血圧症	2
87	肺静脈閉塞症／肺毛細血管腫症	0
88	慢性血栓性肺高血圧症	3
89	リンパ脈管筋腫症	1
90	網膜色素変性症	7
91	バッド・キアリ症候群	0
92	特発性門脈圧亢進症	1
93	原発性胆汁性胆管炎	18
94	原発性硬化性胆管炎	0
95	自己免疫性肝炎	6
96	クローン病	30
97	潰瘍性大腸炎	77
98	好酸球性消化管疾患	2
99	慢性特発性偽性腸閉塞症	0
100	巨大膀胱短小結腸腸管蠕動不全症	0
101	腸管神経節細胞減少症	0
102	ルビンシュタイン・テイビ症候群	0
103	CFC症候群	0
104	コステロ症候群	0
105	チャージ症候群	0
106	クリオピリン関連周期熱症候群	0
107	若年性特発性関節炎	0
108	TNF受容体関連周期性症候群	0
109	非典型溶血性尿毒症症候群	0
110	ブラウ症候群	0
111	先天性ミオパチー	1
112	マリネスコ・シェーグレン症候群	0
113	筋ジストロフィー	1
114	非ジストロフィー性ミオトニー症候群	0
115	遺伝性周期性四肢麻痺	0
116	アトピー性脊髄炎	0
117	脊髄空洞症	0
118	脊髄髄膜瘤	0
119	アイザックス症候群	0
120	遺伝性ジストニア	0
121	脳内鉄沈着神経変性症	0
122	脳表ヘモジデリン沈着症	0
123	HTRA1関連脳小血管病	0
124	皮質下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優性脳動脈症	0
125	神経軸索スフェロイド形成を伴う遺伝性びまん性白質脳症	0
126	ベリー病	0
127	前頭側頭葉変性症	0

番号	病名	回答者数 (N=591)
128	ピッカースタッフ脳幹脳炎	0
129	痙攣重積型(二相性)急性脳症	0
130	先天性無痛無汗症	0
131	アレキサンダー病	0
132	先天性核上性球麻痺	0
133	メビウス症候群	0
134	中隔視神経形成異常症/ドモルシア症候群	0
135	アイカルディ症候群	0
136	片側巨脳症	0
137	限局性皮質異形成	0
138	神経細胞移動異常症	0
139	先天性大脳白質形成不全症	0
140	ドラベ症候群	0
141	海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん	0
142	ミオクロニー欠神てんかん	0
143	ミオクロニー脱力発作を伴うてんかん	0
144	レノックス・ガストー症候群	0
145	ウエスト症候群	0
146	大田原症候群	0
147	早期ミオクロニー脳症	0
148	遊走性焦点発作を伴う乳児てんかん	0
149	片側痙攣・片麻痺・てんかん症候群	0
150	環状20番染色体症候群	0
151	ラスマッセン脳炎	0
152	PCDH19関連症候群	0
153	難治頻回部分発作重積型急性脳炎	0
154	睡眠時棘後波活性化を示す発達性てんかん性脳症及びてんかん性脳症	0
155	ランドウ・クレフナー症候群	0
156	レット症候群	0
157	スタージ・ウェーバー症候群	0
158	結節性硬化症	0
159	色素性乾皮症	0
160	先天性魚鱗癬	0
161	家族性良性慢性天疱瘡	0
162	類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	0
163	特発性後天性全身性無汗症	0
164	眼皮膚白皮症	0
165	肥厚性皮膚骨膜症	0
166	弾性線維性仮性黄色腫	0
167	マルファン症候群/ロイス・ディーツ症候群	0
168	エーラス・ダンロス症候群	0
169	メンケス病	0
170	オクシタル・ホーン症候群	0
171	ウィルソン病	0
172	低ホスファターゼ症	0

番号	病名	回答者数 (N=591)
173	VATER症候群	0
174	那須・ハコラ病	0
175	ウィーバー症候群	0
176	コフィン・ローリー 症候群	0
177	ジュベール症候群関連疾患	0
178	モワット・ウィルソン症候群	0
179	ウィリアムズ症候群	0
180	ATR-X症候群	0
181	クルーゾン症候群	0
182	アペール症候群	0
183	ファイファー症候群	0
184	アントレー・ピクスラー症候群	0
185	コフィン・シリズ症候群	0
186	ロスムンド・トムソン症候群	0
187	歌舞伎症候群	0
188	多脾症候群	0
189	無脾症候群	0
190	鰓耳腎症候群	0
191	ウェルナー症候群	0
192	コケイン症候群	0
193	ブラダー・ウィリ症候群	0
194	ソトス症候群	0
195	ヌーナン症候群	0
196	ヤング・シンプソン症候群	0
197	1p36欠失症候群	0
198	4p欠失症候群	0
199	5p欠失症候群	0
200	第14番染色体父親性ダイソミー症候群	0
201	アンジェルマン症候群	0
202	スミス・マギニス症候群	0
203	22q11.2欠失症候群	0
204	エマヌエル症候群	0
205	脆弱X症候群関連疾患	0
206	脆弱X症候群	0
207	総動脈幹遺残症	0
208	修正大血管転位症	0
209	完全大血管転位症	0
210	単心室症	0
211	左心低形成症候群	0
212	三尖弁閉鎖症	1
213	心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖症	0
214	心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症	1
215	ファロー四徴症	1
216	両大血管右室起始症	0
217	エプスタイン病	0

番号	病名	回答者数 (N=591)
218	アルポート症候群	0
219	ギャロウェイ・モワト症候群	0
220	急速進行性糸球体腎炎	0
221	抗糸球体基底膜腎炎	0
222	一次性ネフローゼ症候群	1
223	一次性膜性増殖性糸球体腎炎	0
224	紫斑病性腎炎	0
225	先天性腎性尿崩症	0
226	間質性膀胱炎(ハンナ型)	0
227	オスラー病	0
228	閉塞性細気管支炎	0
229	肺胞蛋白症(自己免疫性又は先天性)	1
230	肺胞低換気症候群	0
231	$\alpha 1$ -アンチトリプシン欠乏症	0
232	カーニー複合	0
233	ウォルフラム症候群	0
234	ベルオキシソーム病(副腎白質ジストロフィーを除く。)	0
235	副甲状腺機能低下症	0
236	偽性副甲状腺機能低下症	0
237	副腎皮質刺激ホルモン不応症	0
238	ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症	0
239	ビタミンD依存性くる病/骨軟化症	0
240	フェニルケトン尿症	0
241	高チロシン血症1型	0
242	高チロシン血症2型	0
243	高チロシン血症3型	0
244	メーブルシロップ尿症	0
245	プロピオン酸血症	0
246	メチルマロン酸血症	0
247	イソ吉草酸血症	0
248	グルコーストランスポーター1欠損症	0
249	グルタル酸血症1型	0
250	グルタル酸血症2型	0
251	尿素サイクル異常症	0
252	リジン尿性蛋白不耐症	0
253	先天性葉酸吸収不全	0
254	ボルフィリン症	0
255	複合カルボキシラーゼ欠損症	0
256	筋型糖原病	0
257	肝型糖原病	0
258	ガラクトース-1-リン酸ウリジルトランスフェラーゼ欠損症	0
259	レンチンコレステロールアシルトランスフェラーゼ欠損症	0
260	シトステロール血症	0
261	タンジール病	0
262	原発性高カイロミクロン血症	0

番号	病名	回答者数 (N=591)
263	脳腱黄色腫症	0
264	無 β リポタンバク血症	0
265	脂肪萎縮症	0
266	家族性地中海熱	0
267	高IgD症候群	0
268	中條・西村症候群	0
269	化膿性無菌性関節炎・壊疽性膿皮症・アクネ症候群	0
270	慢性再発性多発性骨髄炎	0
271	強直性脊椎炎	4
272	進行性骨化性線維異形成症	0
273	肋骨異常を伴う先天性側弯症	0
274	骨形成不全症	0
275	タナトフォリック骨異形成症	0
276	軟骨無形成症	0
277	リンパ管腫症/ゴーハム病	0
278	巨大リンパ管奇形(頸部顔面病変)	0
279	巨大静脈奇形(頸部口腔咽頭びまん性病変)	1
280	巨大動脈奇形(頸部顔面又は四肢病変)	0
281	クリッペル・トレノネー・ウェーバー症候群	1
282	先天性赤血球形成異常性貧血	0
283	後天性赤芽球癆	1
284	ダイヤモンド・ブラックファン貧血	0
285	ファンconi貧血	0
286	遺伝性鉄芽球性貧血	0
287	エプスタイン症候群	0
288	自己免疫性後天性凝固因子欠乏症	0
289	クローンカイト・カナダ症候群	0
290	非特異性多発性小腸潰瘍症	1
291	ヒルシュスプルング病(全結腸型又は小腸型)	0
292	総排泄腔外反症	0
293	総排泄腔遺残	0
294	先天性横隔膜ヘルニア	0
295	乳幼児肝巨大血管腫	0
296	胆道閉鎖症	0
297	アラジール症候群	0
298	遺伝性肺炎	0
299	嚢胞性線維症	0
300	IgG4関連疾患	0
301	黄斑ジストロフィー	0
302	レーベル遺伝性視神経症	0
303	アッシャー症候群	0
304	若年発症型両側性感音難聴	0
305	遅発性内リンパ水腫	0
306	好酸球性副鼻腔炎	20
307	カナパン病	0

番号	病名	回答者数 (N=591)
308	進行性白質脳症	0
309	進行性ミオクローヌスてんかん	0
310	先天異常症候群	0
311	先天性三尖弁狭窄症	0
312	先天性僧帽弁狭窄症	0
313	先天性肺静脈狭窄症	0
314	左肺動脈右肺動脈起始症	0
315	ネイルパテラ症候群(爪膝蓋骨症候群)/LMX1B関連腎症	0
316	カルニチン回路異常症	0
317	三頭酵素欠損症	0
318	シトリン欠損症	0
319	セピアブテリン還元酵素(SR)欠損症	0
320	先天性グリコシルホスファチジルイノシトール(GPI)欠損症	0
321	非ケトーシス型高グリシニン血症	0
322	β -ケトチオラーゼ欠損症	0
323	芳香族L-アミノ酸脱炭酸酵素欠損症	0
324	メチルグルタコン酸尿症	0
325	遺伝性自己炎症疾患	0
326	大理石骨病	0
327	特発性血栓症(遺伝性血栓性素因によるものに限る。)	0
328	前眼部形成異常	0
329	無虹彩症	1
330	先天性気管狭窄症/先天性声門下狭窄症	0
331	特発性多中心性キャッスルマン病	1
332	膠様滴状角膜ジストロフィー	0
333	ハッチンソン・ギルフォード症候群	0
334	脳クレアチン欠乏症候群	0
335	ネフロン癆	0
336	家族性低 β リポタンバク血症1(ホモ接合体)	0
337	ホモシスチン尿症	0
338	進行性家族性肝内胆汁うっ滞症	0
339	MECP2重複症候群	0
340	線毛機能不全症候群(カルタゲナー(Kartagener)症候群を含む。)	0
341	TRPV4異常症	0
342	LMNB1 関連大脳白質脳症	0
343	PURA 関連神経発達異常症	0
344	極長鎖アシル-CoA 脱水素酵素欠損症	0
345	乳児発症 STING 関連血管炎	0
346	原発性肝外門脈閉塞症	0
347	出血性線溶異常症	0
348	口ウ症候群	0
	無回答	23

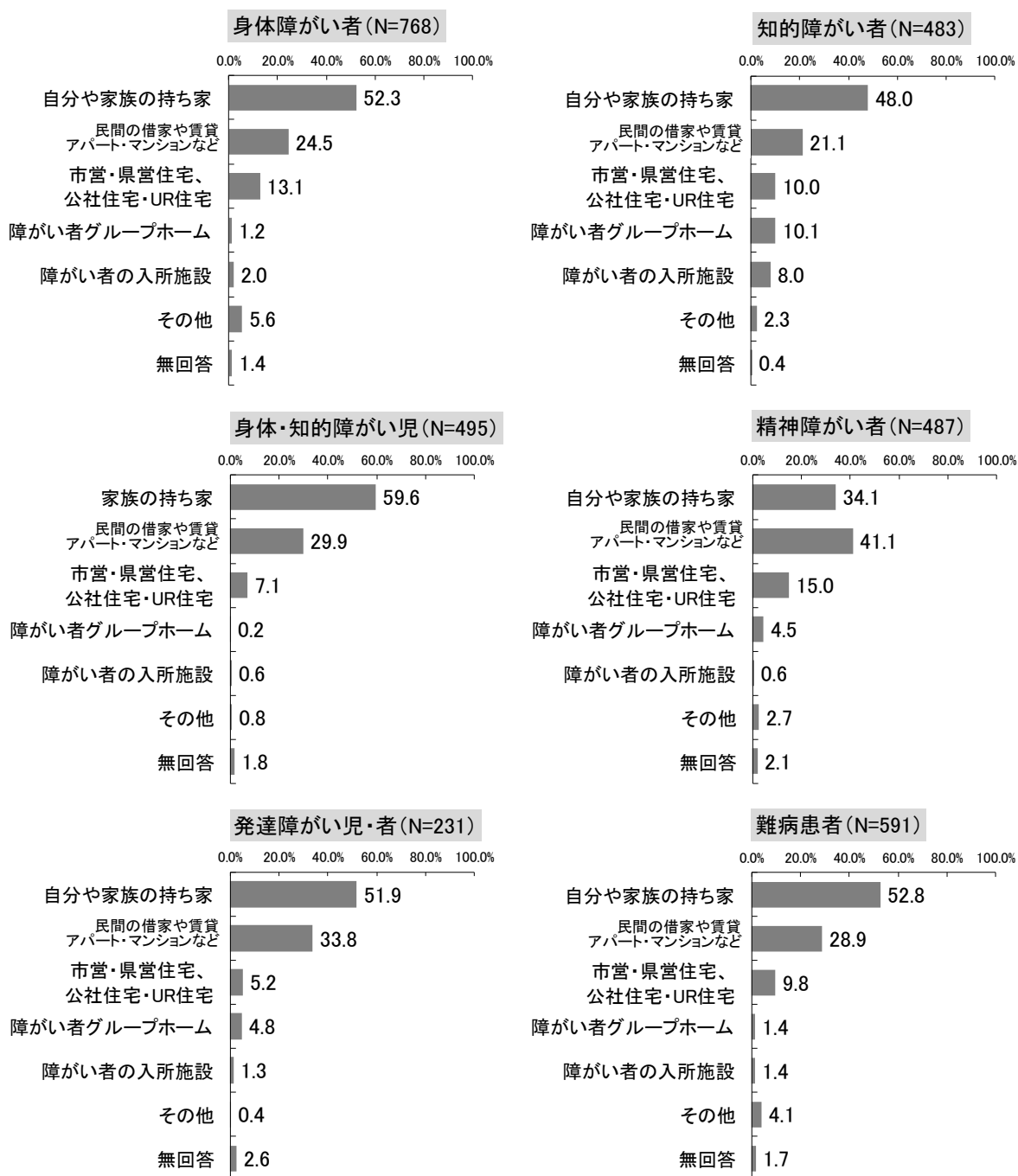
3 各障がい調査の結果

(1) 生活状況

① 住まいの形態

- 住まいの形態では、精神障がい者を除く全ての種別で「自分や家族の持ち家」が約5～6割で最も多くなっている。
- 精神障がい者は「民間の借家や賃貸アパート・マンションなど」(41.1%) が最も多くなっている。

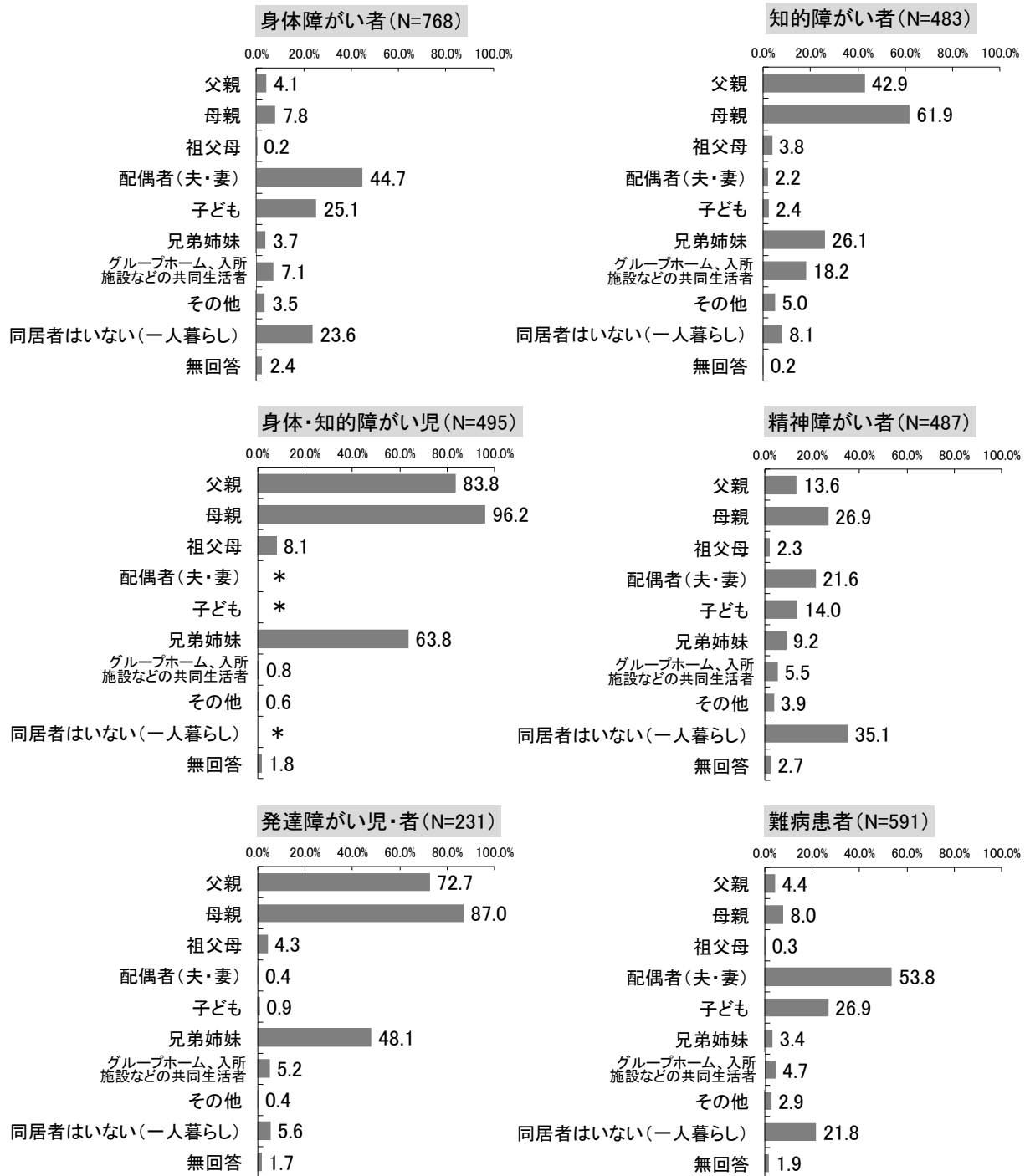
【住まいの形態】



② 同居家族（複数回答）

- 同居家族では、身体・知的障がい児や発達障がい児・者は「母親」が概ね9割を占めている。また、若年層の多い知的障がい者でも「母親」が6割を占めている。それぞれ次に「父親」と続く。
- 高齢者の多い身体障がい者や難病患者は「配偶者（夫・妻）」がそれぞれ約4割、約5割を占めている。
- 精神障がい者は「同居者はいない（一人暮らし）」（35.1%）が最も多くなっている。

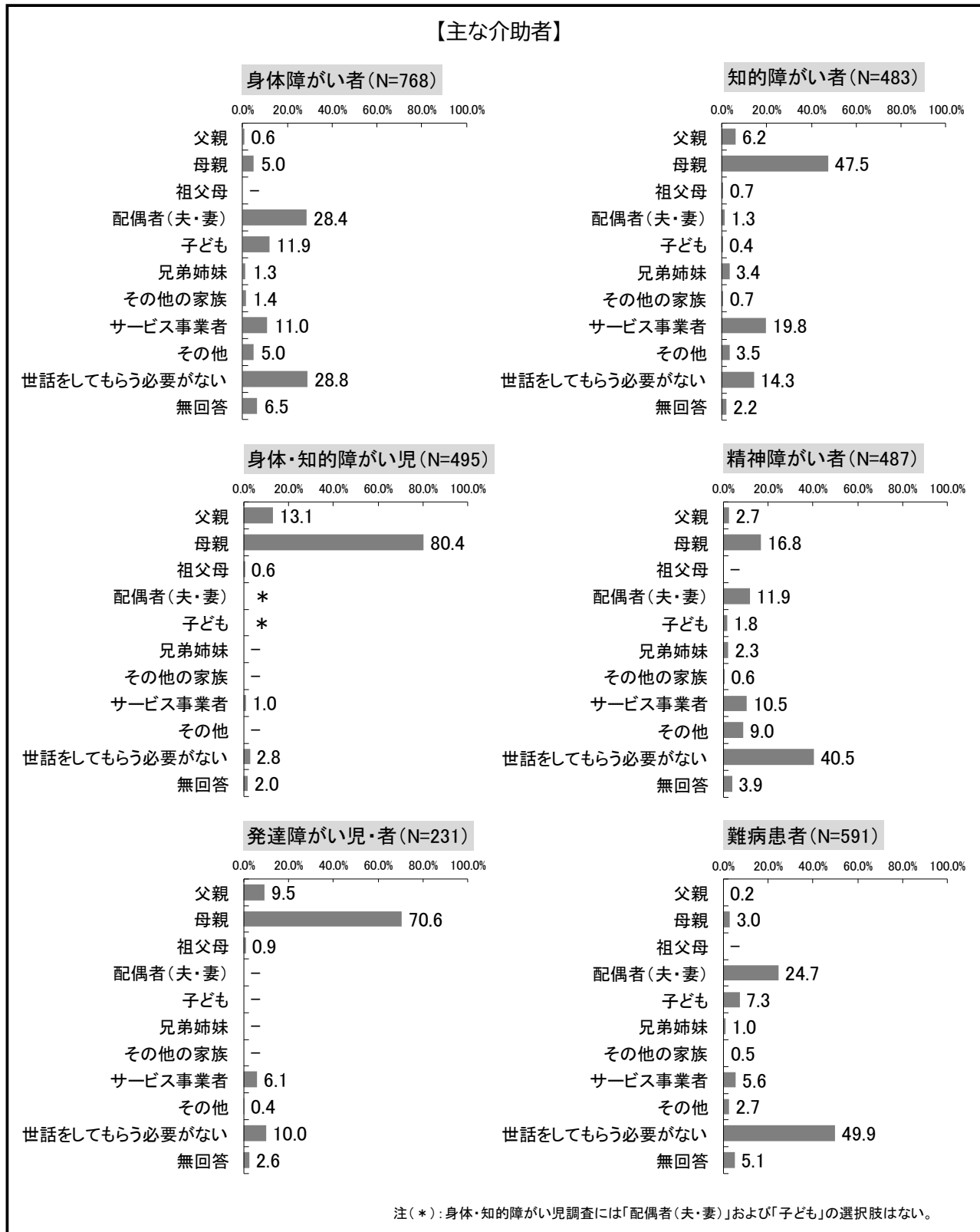
【同居家族】（複数回答）



注（*）：身体・知的障がい児調査には「配偶者（夫・妻）」および「子ども」、「同居者はいない（一人暮らし）」の選択肢はない。

③ 主な介助者

- 主な介助者では、身体・知的障がい児や発達障がい児・者は「母親」がそれぞれ約8割、約7割を占めている。一方で「父親」は約1割となっている。また、若年層が多い知的障がい者でも「母親」が半数近くを占めている。
- 精神障がい者や難病患者は「世話をしてもらわないといけない」の割合が他の障がいに比べて多くなっている。

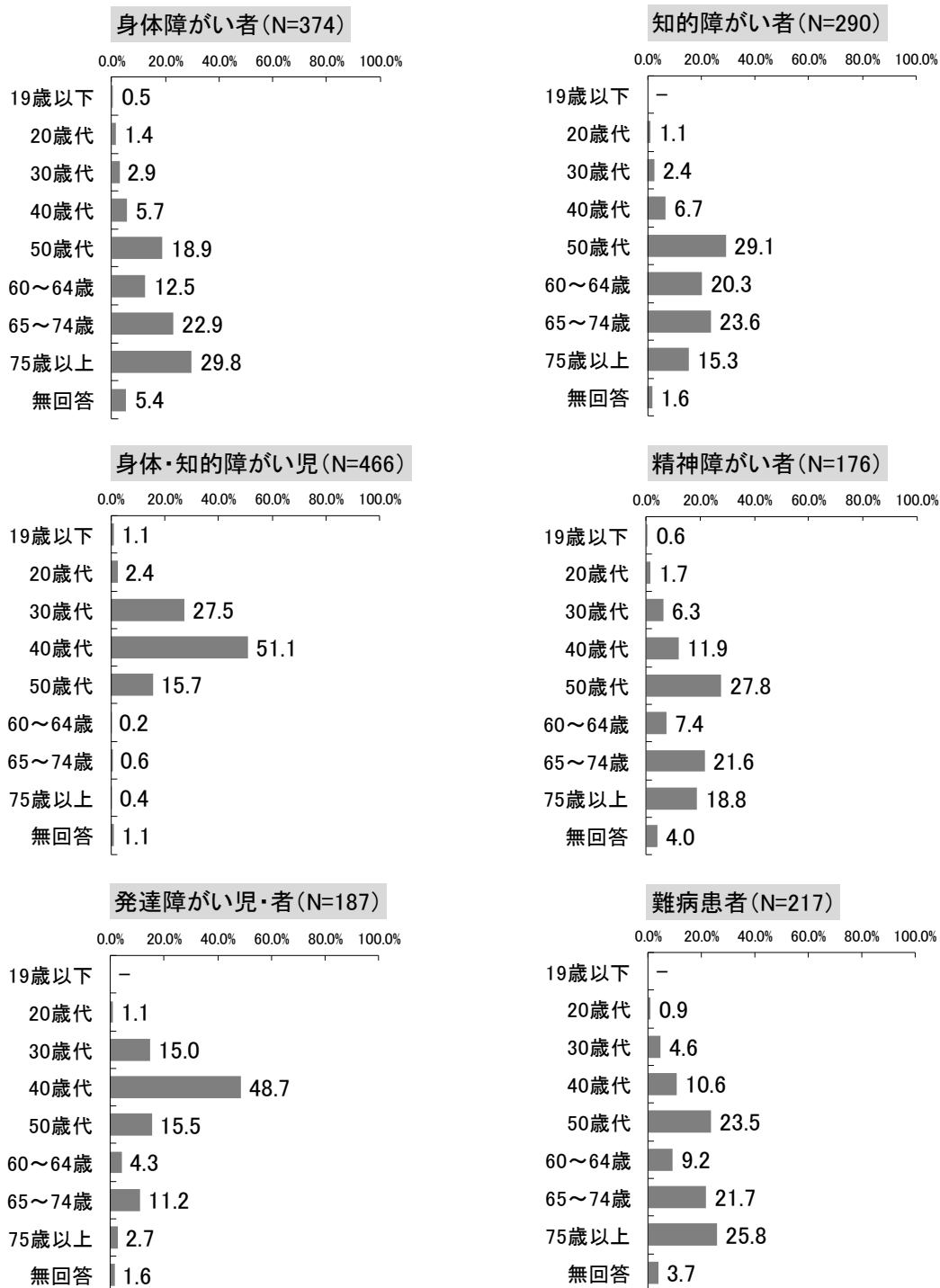


④ 主な介助者の年齢

- 主な介助者の年齢では、身体・知的障がい児や発達障がい児・者は「40歳代」が概ね過半数を占めている。
- 身体障がい者、難病患者は「75歳以上」が約3割で最も多くなっている。

【主な介助者の年齢】

※集計対象は、「主な介助者(父親・母親・祖父母・配偶者・子ども・兄弟姉妹・その他家族)」のいずれかを回答した方のみとしている。

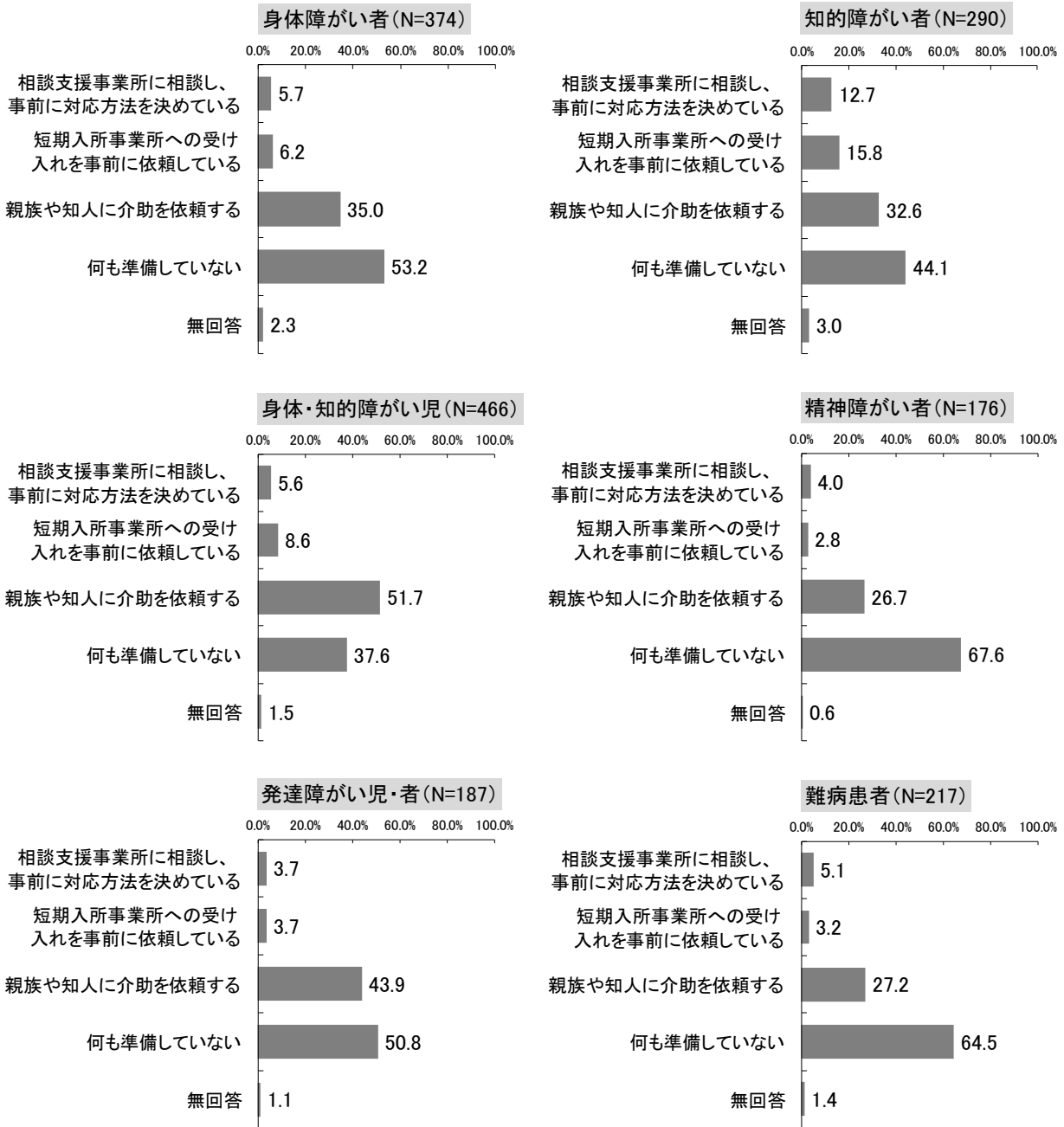


⑤ 介助者が不在となった場合の緊急時対応（主な介助者がいる人による複数回答）

- 介助者が不在となった場合の緊急時対応では、身体・知的障がい児を除く全ての障がい種別で「何も準備していない」が約4～7割で最も多くなっている。
- 身体・知的障がい児は「親族や知人に介助を依頼する」（51.7%）が最も多くなっているが、「何も準備していない」も約4割となっている。

【介助者が不在となった場合の緊急時対応】（主な介助者がいる人による複数回答）

※集計対象は、「主な介助者（父親・母親・祖父母・配偶者・子ども・兄弟姉妹・その他家族）」のいずれかを回答した方のみとしている。

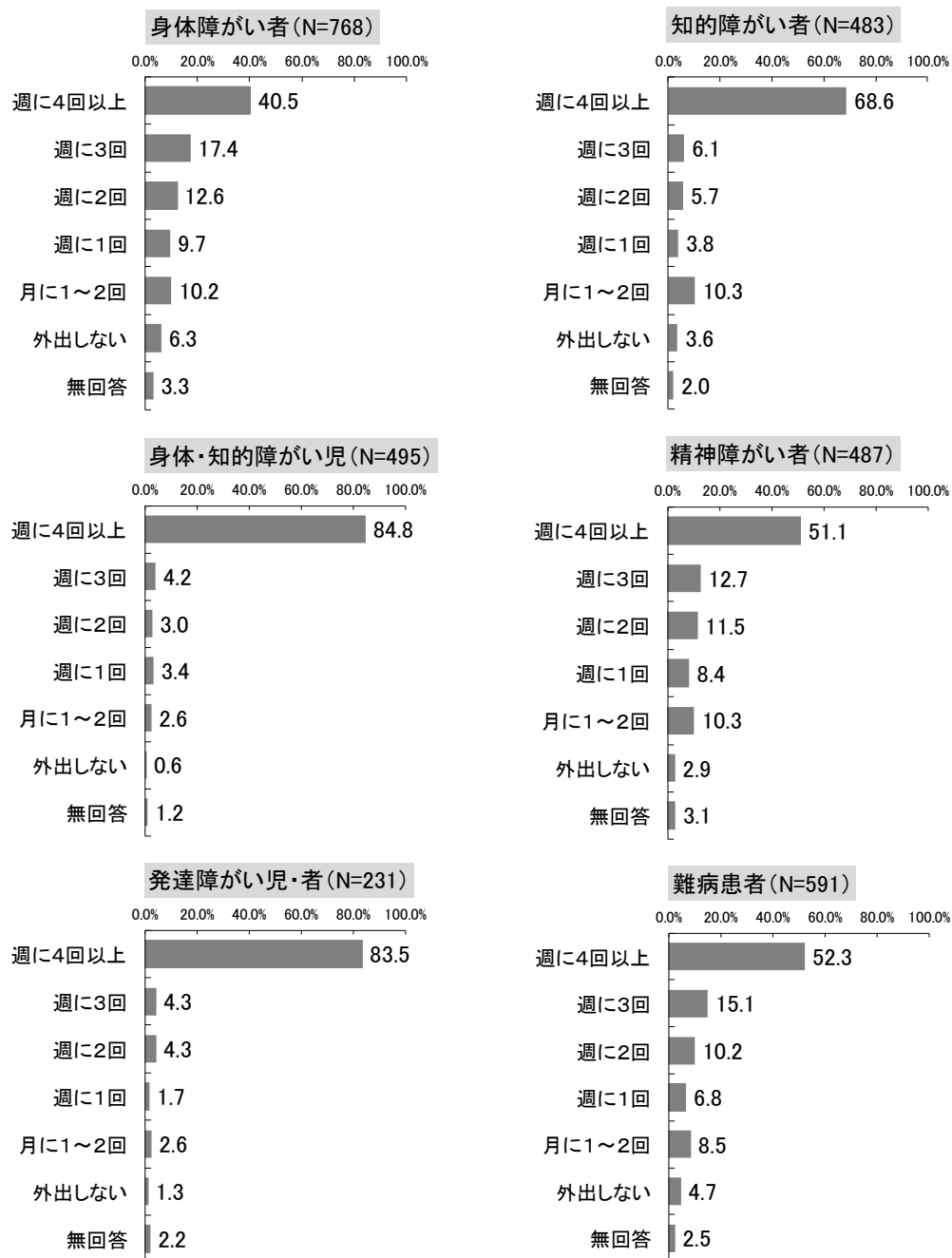


(2) 外出状況

① 外出の頻度

- 外出の頻度では、全ての障がい種別で「週に4回以上」が最も多く、特に身体・知的障がい児、発達障がい児・者においては約8割を占めている。

【外出の頻度】



② 外出時に不便や困難を感じること（複数回答）

- 外出時に不便や困難を感じることは、多くの障がい種別で「歩道がない道路に危険を感じる」と「歩行者や走行自転車のマナーの悪さ」、「歩道に段差が多い」等、歩道の整備や交通マナーに関する項目が上位5位以内に入っている。
- 知的障がい者や身体・知的障がい児、精神障がい者、発達障がい児・者は「まわりの人の目が気になる」が上位にあがっている。

【外出時に不便や困難を感じること】（複数回答上位5項目）

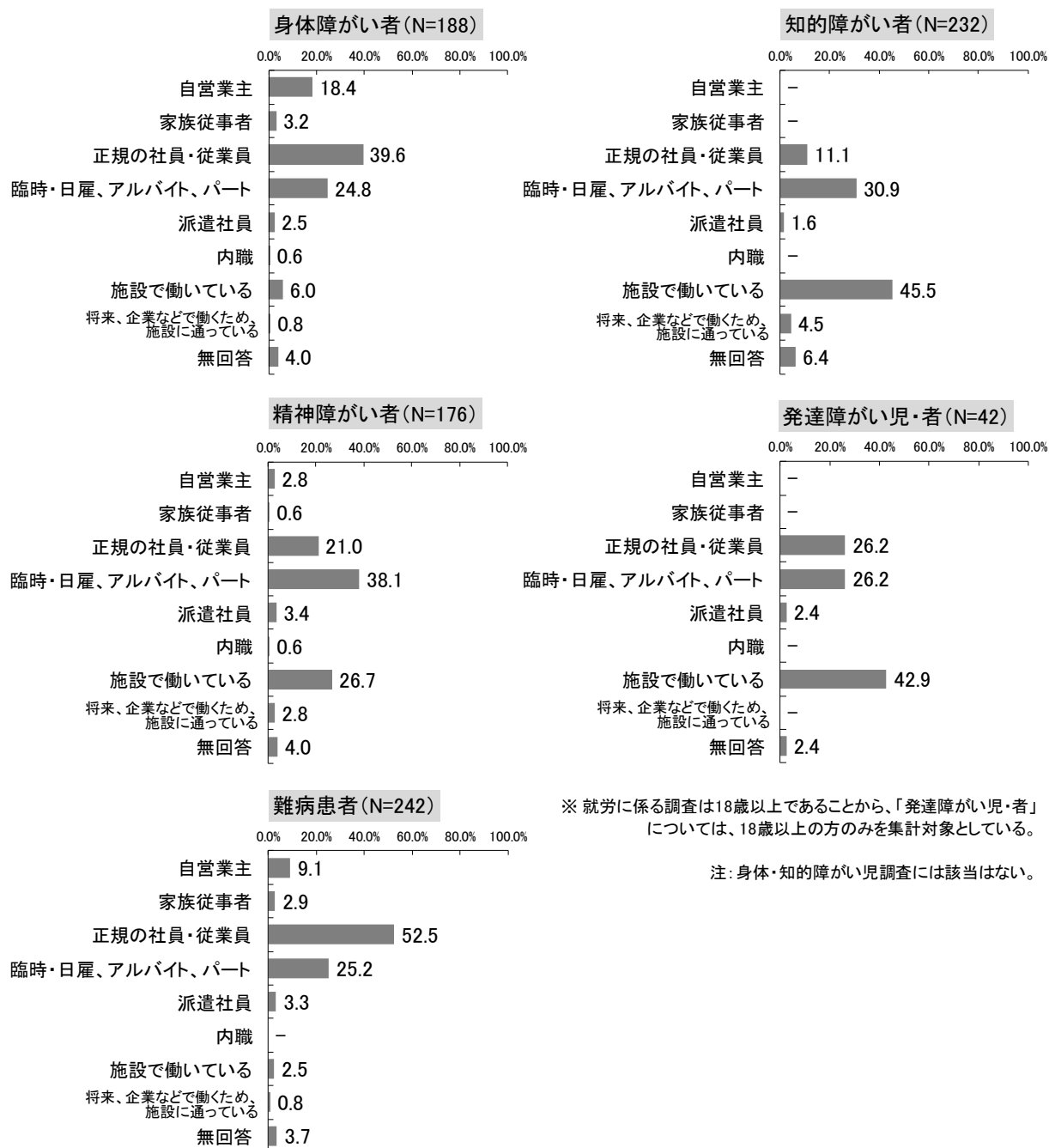
	身体障がい者 (N=768)	知的障がい者 (N=483)	身体・知的 障がい児 (N=495)	精神障がい者 (N=487)	発達障がい児・者 (N=231)	難病患者 (N=591)
1位	歩道に段差が多い (36.7%)	歩道がない道路に 危険を感じる (24.2%)	歩道がない道路に 危険を感じる (40.8%)	まわりの人の目が 気になる (29.2%)	歩道がない道路に 危険を感じる (24.7%)	歩道に段差が多い (26.2%)
2位	歩行者や走行自転 車のマナーの悪さ (29.5%)	歩行者や走行自転 車のマナーの悪さ (20.7%)	まわりの人の目が 気になる (28.1%)	歩行者や走行自転 車のマナーの悪さ (28.5%)	歩行者や走行自転 車のマナーの悪さ (22.1%)	歩行者や走行自転 車のマナーの悪さ (22.2%)
3位	歩道がない道路に 危険を感じる (26.1%)	まわりの人の目が 気になる (17.6%)	歩行者や走行自転 車のマナーの悪さ (20.8%)	歩道がない道路に 危険を感じる (21.1%)	まわりの人の目が 気になる (20.3%)	歩道がない道路に 危険を感じる (18.8%)
4位	障がい者用の駐車 場が少ない (14.0%)	歩道に段差が多い (15.2%)	歩道に段差が多い (17.4%)	外出に費用がかか りすぎる (20.1%)	外出に費用がかか りすぎる (11.7%)	外出に費用がかか りすぎる (11.3%)
5位	道路に自転車など の障害物が多い (13.4%)	障がい者が安心し て利用できる交通 機関が少ない (14.8%)	障がい者が安心し て利用できる交通 機関が少ない (16.2%)	歩道に段差が多い (13.6%)	道路に自転車など の障害物が多い (7.8%)	道路に自転車など の障害物が多い (8.6%)

(3) 就労状況

① 就労形態

- 就労している人の就労形態では、身体障がい者、難病患者は「正規の社員・従業員」がそれぞれ約4割、約5割で最も多くなっている。
- 知的障がい者、発達障がい児・者は「施設で働いている（就労継続支援事業所など）」が、精神障がい者では「臨時・日雇、アルバイト、パート」がそれぞれ約4割で最も多くなっている。

【就労している人の就労形態】



② 障がい者が働きやすくなると思う働き方や制度（複数回答）

- 障がい者が働きやすくなると思う働き方や制度では、多くの障がい種別に共通して「調子の悪いときに休みを取りやすくする」や「短時間勤務などの労働（作業）時間の配慮」、「収入の増加」が上位5位以内を占めている。
- 知的障がい者、精神障がい者、発達障がい児・者は「仕事（作業）上の援助や本人・周囲への助言を行う者（ジョブコーチなど）による支援」が上位5位以内に入っている。また、発達障がい児・者は「発達障がいの特性を踏まえた作業手順の視覚化などの配慮」も上位2位にあがっている。

【障がい者が働きやすくなると思う働き方や制度】（複数回答上位5項目）

	身体障がい者 (N=768)	知的障がい者 (N=483)	精神障がい者 (N=487)	発達障がい児・者 (N=81)	難病患者 (N=591)
1位	調子の悪いときに 休みを取りやすく する (40.0%)	調子の悪いときに 休みを取りやすく する (47.7%)	調子の悪いときに 休みを取りやすく する (64.7%)	仕事（作業）上の 援助や本人・周囲 への助言を行う者 （ジョブコーチな ど）による支援 (69.1%)	調子の悪いときに 休みを取りやすく する (61.3%)
2位	短時間勤務などの 労働（作業）時間 の配慮 (34.3%)	仕事（作業）上の 援助や本人・周囲 への助言を行う者 （ジョブコーチな ど）による支援 (47.6%)	収入の増加 (52.4%)	発達障がいの特性 を踏まえた作業手 順の視覚化などの 配慮 (61.7%)	短時間勤務などの 労働（作業）時間 の配慮 (41.3%)
3位	収入の増加 (31.9%)	収入の増加 (42.4%)	短時間勤務などの 労働（作業）時間 の配慮 (48.3%)	短時間勤務などの 労働（作業）時間 の配慮 (45.7%)	在宅勤務 (40.4%)
4位	在宅勤務 (31.2%)	短時間勤務などの 労働（作業）時間 の配慮 (35.0%)	在宅勤務 (42.7%)	仕事（作業）の内容 の簡略化などの 配慮 (45.7%)	通院時間の確保・ 服薬管理など医療 上の配慮 (34.5%)
5位	通院時間の確保・ 服薬管理など医療 上の配慮 (22.2%)	仕事（作業）の内容 の簡略化などの 配慮 (33.1%)	仕事（作業）上の 援助や本人・周囲 への助言を行う者 （ジョブコーチな ど）による支援 (32.4%)	収入の増加 (43.2%)	収入の増加 (27.2%)

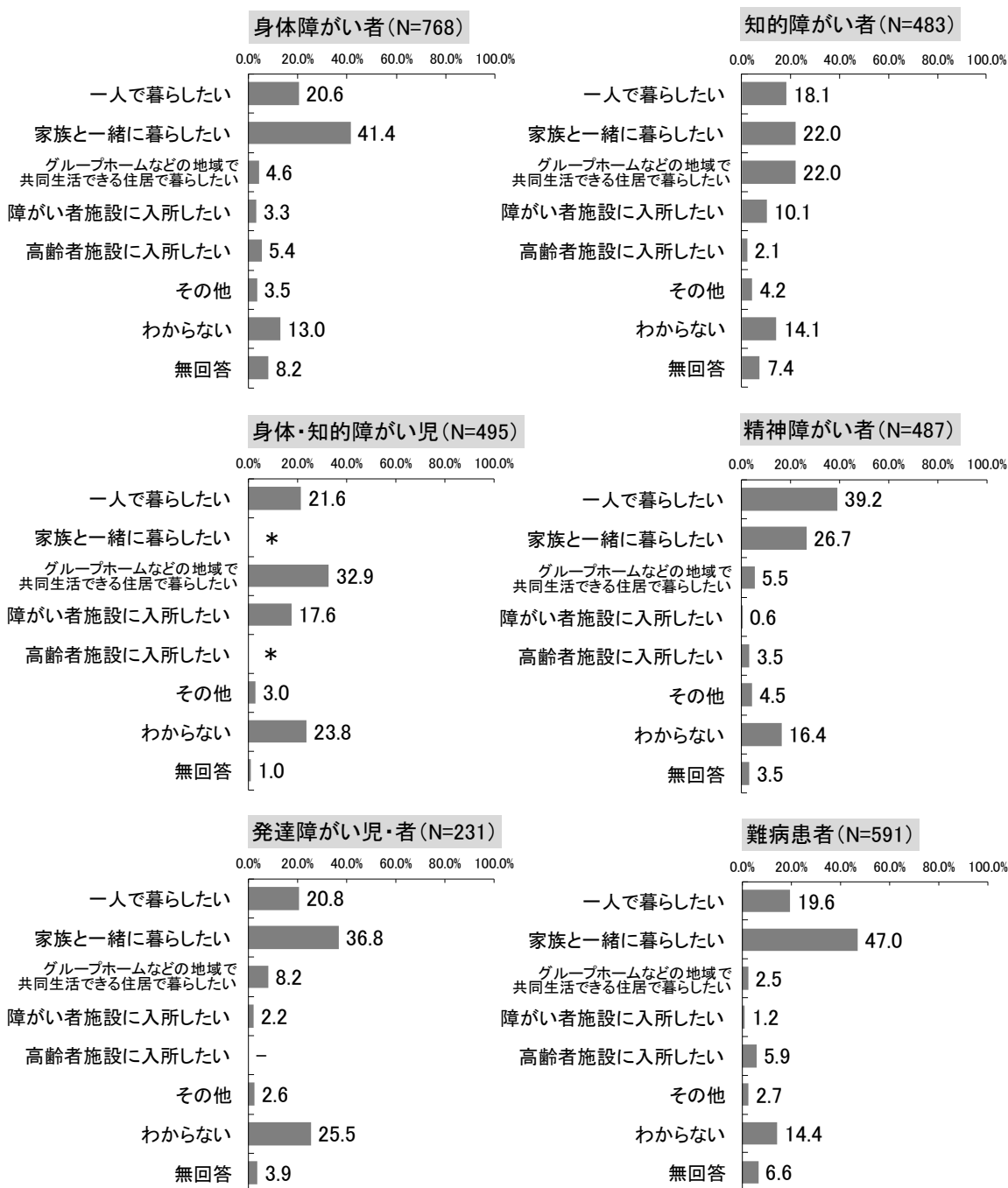
注：身体・知的障がい児調査には該当はない。

(4) 今後の暮らし方

① 希望する今後の暮らし方

- 希望する今後の暮らし方では、「家族と一緒に暮らしたい」が身体障がい者（41.4%）、発達障がい児・者（36.8%）、難病患者（47.0%）と最も多くなっており、精神障がい者は「一人で暮らしたい」（39.2%）、身体・知的障がい児は「グループホームなどの地域で共同生活できる住居で暮らしたい」（32.9%）が最も多くなっている。
- 知的障がい者については「家族と一緒に暮らしたい」、「グループホームなどの地域で共同生活できる住居で暮らしたい」（ともに 22.0%）が最も多くなっている。

【希望する今後の暮らし方】



注(*)：身体・知的障がい児調査には「家族と一緒に暮らしたい」および「高齢者施設に入所したい」の選択肢はない。

② 自宅やグループホームで生活するために必要な条件（複数回答）

- 自宅やグループホームで生活するために必要な条件では、多くの障がい種別で「調理や掃除、洗濯などの家事の手伝いを頼める人がいること」や「仕事があること」、「主治医や医療機関が近くにあること」等が上位5位以内を占めている。
- その他、身体・知的障がい児は「お子さんの見守りを頼める人がいること」、発達障がい児・者は「地域や職場の人たちが障がいについて理解があること」がそれぞれ1位、2位にあがっている。

【自宅やグループホームで生活するために必要な条件】（複数回答上位5項目）

	身体障がい者 (N=768)	知的障がい者 (N=483)	身体・知的 障がい児 (N=495)	精神障がい者 (N=487)	発達障がい児・者 (N=231)	難病患者 (N=591)
1位	主治医や医療機関 が近くにあること (34.1%)	調理や掃除、洗濯 などの家事の手伝 いを頼める人がい ること (29.6%)	お子さんの見守り を頼める人がいる こと (40.2%)	調理や掃除、洗濯 などの家事の手伝 いを頼める人がい ること (34.3%)	仕事があること (51.5%)	主治医や医療機関 が近くにあること (34.0%)
2位	調理や掃除、洗濯 などの家事の手伝 いを頼める人がい ること (29.5%)	仕事があること (24.4%)	調理や掃除、洗濯 などの家事の手伝 いを頼める人がい ること (28.7%)	仕事があること (33.7%)	地域や職場の人た ちが障がいについ て理解があること (29.4%)	調理や掃除、洗濯 などの家事の手伝 いを頼める人がい ること (27.7%)
3位	スーパーや銀行な どの生活に必要な 機関が近くにある こと (27.0%)	就労継続支援事業 所（A型、B型） で働けること (22.2%)	仕事があること (27.9%)	主治医や医療機関 が近くにあること (31.4%)	調理や掃除、洗濯 などの家事の手伝 いを頼める人がい ること (26.0%)	スーパーや銀行な どの生活に必要な 機関が近くにある こと (25.5%)
4位	家族と同居できる こと (21.7%)	グループホームな ど共同生活できる 場があること (20.4%)	就労や生活の自立、 機能の回復へ向け て訓練を受けられ る施設に通えるこ と (21.0%)	スーパーや銀行な どの生活に必要な 機関が近くにある こと (29.8%)	地域で何でも相談 できる相談員や相 談窓口があること (19.9%)	仕事があること (19.5%)
5位	屋間の介護を頼め る人がいること (13.9%)	家族と同居できる こと (19.2%)	就労継続支援事業 所（A型、B型） で働けること (18.8%)	就労継続支援事業 所（A型、B型） で働けること (16.6%)	主治医や医療機関 が近くにあること (15.6%)	家族と同居できる こと (18.4%)

(5) 防災について

① 災害発生時に困ることや不安なこと（複数回答）

- 災害発生時に困ることや不安なことでは、多くの障がい種別に共通して「避難所で必要な支援が受けられるか不安」や「一人では避難できない」、「薬や医療的ケアを確保できるかどうか不安」、「避難所でほかの人と一緒に過ごすのが難しい」が上位5位以内を占めている。
- その他、身体・知的障がい児は「子どもが助けを求める方法がない」も上位3位にあがっている。

【災害発生時に困ることや不安なこと】（複数回答上位5項目）

	身体障がい者 (N=768)	知的障がい者 (N=483)	身体・知的 障がい児 (N=495)	精神障がい者 (N=487)	発達障がい児・者 (N=231)	難病患者 (N=591)
1位	薬や医療的ケアを確保できるかどうか不安 (39.2%)	一人では避難できない (43.4%)	一人では避難できない (73.7%)	薬や医療的ケアを確保できるかどうか不安 (52.6%)	避難所でほかの人と一緒に過ごすのが難しい (47.6%)	薬や医療的ケアを確保できるかどうか不安 (51.4%)
2位	避難所で必要な支援が受けられるか不安 (31.0%)	避難所でほかの人と一緒に過ごすのが難しい (41.1%)	避難所で必要な支援が受けられるか不安 (47.7%)	避難所でほかの人と一緒に過ごすのが難しい (36.8%)	避難所で必要な支援が受けられるか不安 (39.8%)	避難所で必要な支援が受けられるか不安 (27.7%)
3位	一人では避難できない (29.8%)	避難所で必要な支援が受けられるか不安 (39.5%)	子どもが助けを求める方法がない (47.1%)	避難所で必要な支援が受けられるか不安 (30.6%)	一人では避難できない (30.3%)	一人では避難できない (20.1%)
4位	避難所の設備が障がいに対応しているか不安 (28.0%)	避難所の設備が障がいに対応しているか不安 (33.6%)	避難所の設備が障がいに対応しているか不安 (43.4%)	近くに助けてくれる人がいない (22.0%)	避難所の設備が障がいに対応しているか不安 (29.0%)	避難所の設備が障がいに対応しているか不安 (15.1%)
5位	避難所でほかの人と一緒に過ごすのが難しい (15.8%)	薬や医療的ケアを確保できるかどうか不安 (32.1%)	避難所でほかの人と一緒に過ごすのが難しい (42.6%)	避難所の設備が障がいに対応しているか不安 (18.9%)	薬や医療的ケアを確保できるかどうか不安 (26.8%)	避難所でほかの人と一緒に過ごすのが難しい (14.6%)

(6) 福祉施策全般について

① 障がい者福祉施策として国や県、市に力を入れてほしいこと（複数回答）

- 障がい者福祉施策として国や県、市に力を入れてほしいことでは、多くの障がい種別に共通して「年金など、所得保障の充実」、「障がい者に配慮した保健、医療体制及び医療費公費負担制度の充実」、「困ったときにいつでも専門職員が相談に応じてくれる体制の充実」が共通して上位5位以内にあげられている。
- 身体・知的障がい児では「特別支援教育の充実」が1位、発達障がい児・者では「就労支援の充実（働くための訓練や職場定着など）」が1位となっている。

【障がい者福祉施策として国や県、市に力を入れてほしいこと】（複数回答上位5項目）

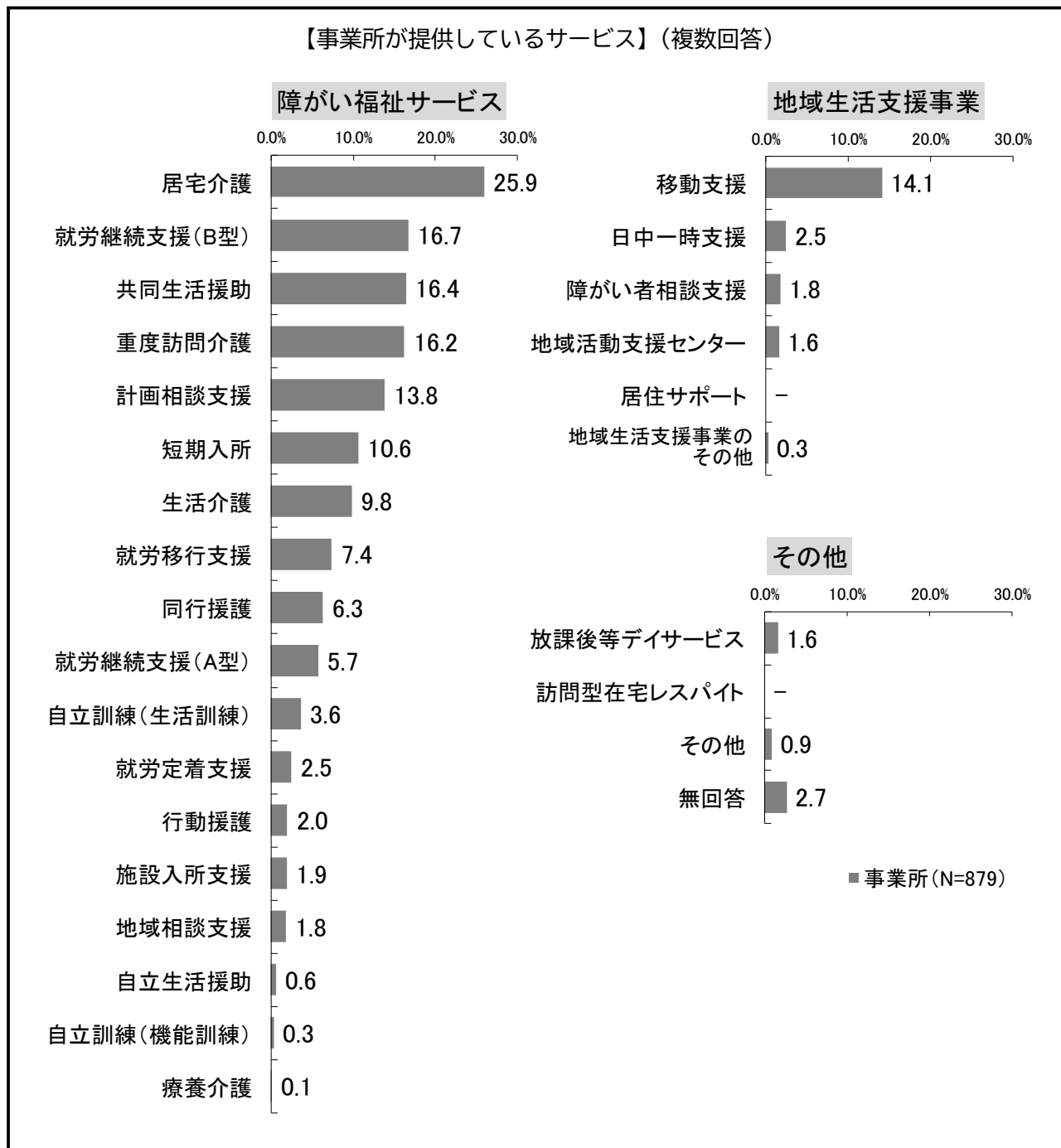
	身体障がい者 (N=768)	知的障がい者 (N=483)	身体・知的 障がい児 (N=495)	精神障がい者 (N=487)	発達障がい児・者 (N=231)	難病患者 (N=591)
1位	年金など、所得保障の充実 (42.2%)	年金など、所得保障の充実 (36.4%)	特別支援教育の充実 (32.1%)	年金など、所得保障の充実 (52.6%)	就労支援の充実 (働くための訓練や職場定着など) (39.8%)	年金など、所得保障の充実 (43.0%)
2位	障がい者に配慮した保健、医療体制及び医療費公費負担制度の充実 (42.1%)	障がい者に配慮した保健、医療体制及び医療費公費負担制度の充実 (31.3%)	年金など、所得保障の充実 (30.5%)	障がい者に配慮した保健、医療体制及び医療費公費負担制度の充実 (39.4%)	年金など、所得保障の充実 (33.3%)	障がい者に配慮した保健、医療体制及び医療費公費負担制度の充実 (42.3%)
3位	困ったときにいつでも専門職員が相談に応じてくれる体制の充実 (20.1%)	グループホームなどの地域で共同生活できる住まいの整備 (25.7%)	就労支援の充実 (働くための訓練や職場定着など) (27.7%)	就労支援の充実 (働くための訓練や職場定着など) (24.0%)	障がい者に対する社会全体の理解を深めるための啓発や教育の充実 (26.8%)	困ったときにいつでも専門職員が相談に応じてくれる体制の充実 (24.4%)
4位	障がい者にやさしいまちづくりの推進（バリアフリーの推進など） (18.0%)	困ったときにいつでも専門職員が相談に応じてくれる体制の充実 (18.4%)	乳幼児期から成人期までの支援を一貫して実施できる仕組みづくり (27.1%)	困ったときにいつでも専門職員が相談に応じてくれる体制の充実 (22.6%)	障がい者に配慮した保健、医療体制及び医療費公費負担制度の充実 (26.4%)	就労支援の充実 (働くための訓練や職場定着など) (14.7%)
5位	居宅介護や移動支援など、在宅生活支援サービスの充実 (15.7%)	施設で働ける場（就労継続支援事業所など）の充実 (16.6%)	障がい者に配慮した保健、医療体制及び医療費公費負担制度の充実 (19.8%)	障がい者に対する社会全体の理解を深めるための啓発や教育の充実 (16.4%)	支援者の養成や質の向上 (26.0%)	介護や訓練が受けられる施設（入所・通所）の充実 (12.5%)

4 事業所調査の結果

(1) 回答事業所の概要について

① 事業所が提供しているサービス（複数回答）

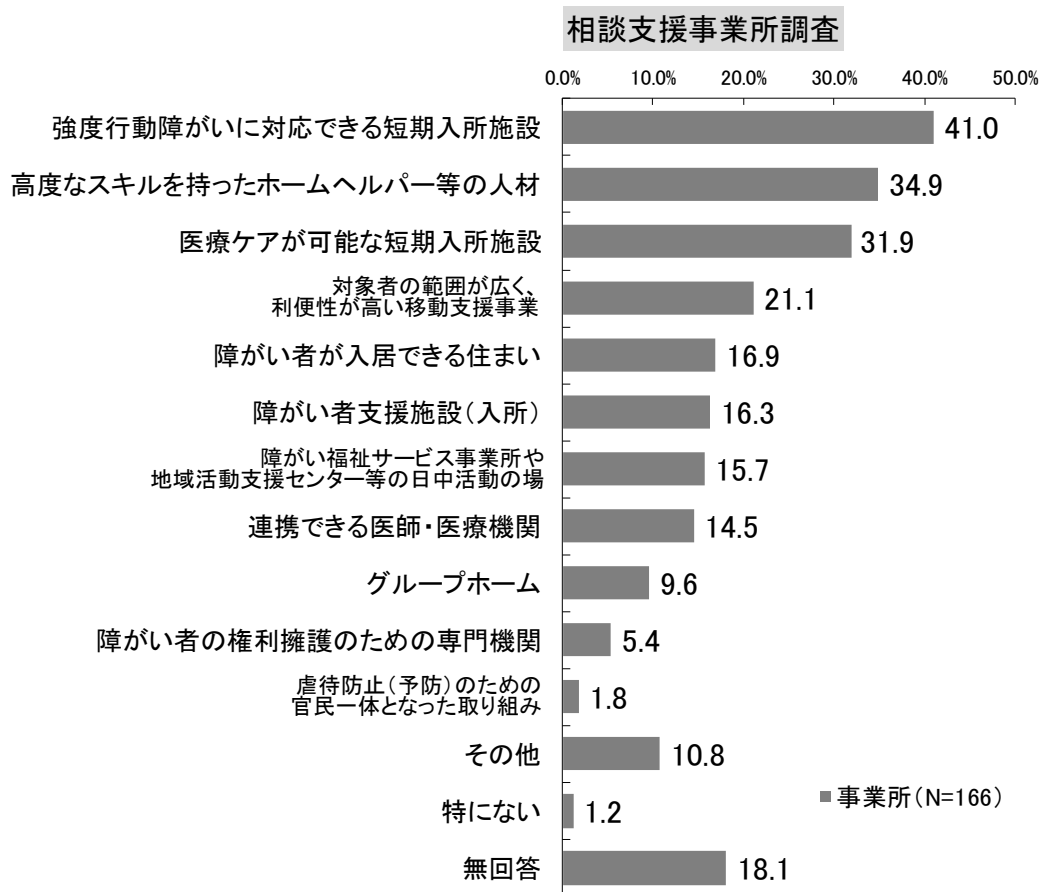
- 事業所が提供しているサービスでは「居宅介護」(25.9%)が最も多く、次いで「就労継続支援（B型）」(16.7%)、「共同生活援助」(16.4%)となっている。



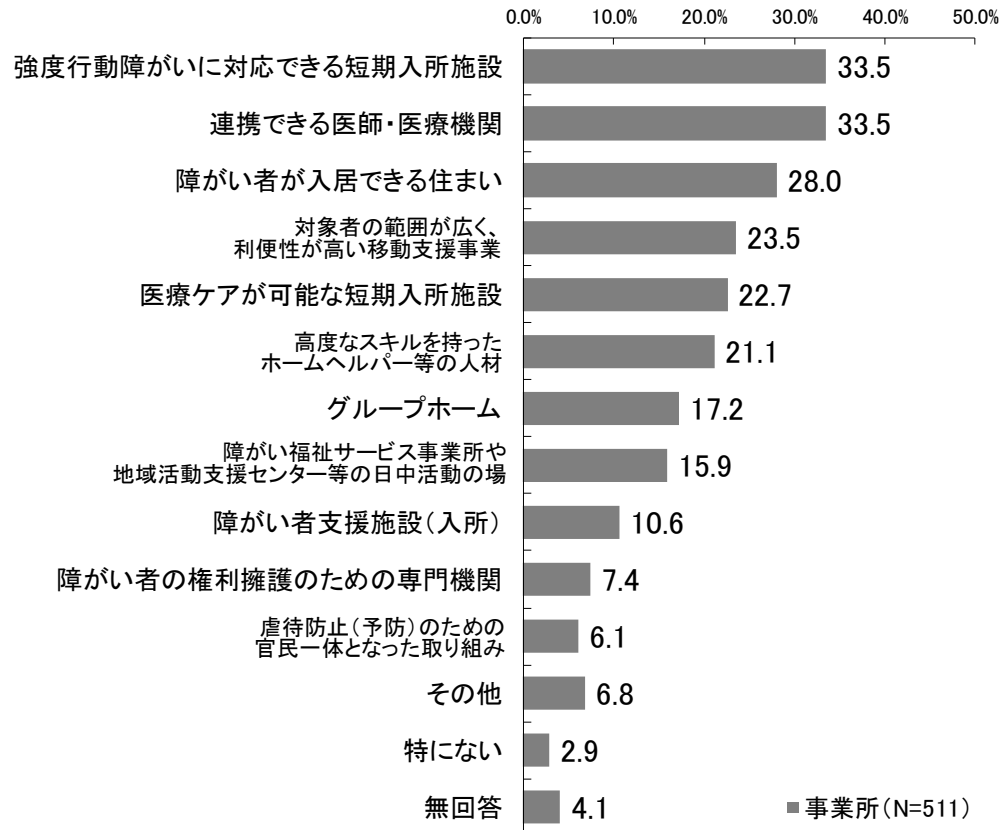
(2) 不足している社会資源（相談支援事業所調査、施設事業所調査）（複数回答）

- 不足している社会資源の相談支援事業所の回答では「強度行動障がいに対応できる短期入所施設」(41.0%) が最も多く、次いで「高度なスキルを持ったホームヘルパー等の人材」(34.9%)、「医療ケアが可能な短期入所施設」(31.9%) となっている。
- また、施設事業所の回答では「強度行動障がいに対応できる短期入所施設」「連携できる医師・医療機関」(ともに 33.5%) が最も多く、次いで「障がい者が入居できる住まい」(28.0%) となっている。

【不足している社会資源(相談支援事業所調査、施設事業所調査)】（複数回答）



施設事業所調査



(3) 事業所で取り組む必要があると思うもの
(居宅介護等サービス事業所調査)(複数回答)

- 事業所で取り組む必要があると思うものでは「職場内での人材育成・教育の充実」(69.8%)が最も多く、次いで「事務処理の効率化」(43.5%)、「従業員の労働条件」(36.6%)となっている。

